

若手の熱意と努力で歯科医療に夢と希望を

—「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催される—

2007年11月23日(日)、山形県酒田市、日吉歯科診療所(熊谷崇院長)セミナールームにて、「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」を開催しました。全国から学生、研修医、若い勤務医約50名が参加しました。2005年からスタートした本セミナーも、今回で6回目を迎え、参加者はのべ300人を超えるまでになりました。

こうしたセミナーを開催する一番の目的は、これからの歯科医療を担う人たちに、夢や希望をもってこの仕事に取り組んでほしいと願っているからにはほかなりません。少子高齢化、医療保険の破綻、歯科医師過剰など、歯科界を取り巻く環境は今後、大きく変化していくと思います。若い歯科医師たちは、その将来を不安視するあまり、歯科医療の本来の価値を見失いがちであると感じています。歯科医療は多くの人々の健康に貢献でき、

やりがいのある、すばらしい分野です。

歯科医師を対象としたセミナーのほとんどは、技術や経営に関するもので、歯科医師の使命や歯科医療の価値を考えるものは多くありません。歯科医師免許を取得する前、取得直後だからこそ、歯科医療の本質に目を向けてほしいと思います。

今回のセミナーは、今後の歯科界の展望、歯科医療の価値などに関する講演、診療所見学、質疑応答と活発に行われました。今後も多くの若い歯科医師に参加していただき、夢や希望を持って歯科医療を担ってほしいと願っています。

今回掲載されなかった参加者の方の感想も、日吉歯科診療所のホームページ(<http://www.hiyoshi-dental-office.org/>)に掲載されていますので、併せてご覧いただければ幸いです。

仲川隆之(山形県勤務医、日吉歯科診療所)

●自分のなかの迷いが晴れた

今回、セミナー受講と日吉歯科診療所見学のため酒田市を久しぶりに訪れました。内観は大きく変わっていましたが、熊谷先生は、以前と変わらぬパワーとエネルギーで歯科界のあるべき姿をさまざまな面から示してくださいました。

考えてみれば、私が悩み、戸惑っているときにはいつも熊谷先生のお話で乗り越えてきた気がします。最初は大学の卒業直前に、漠然と社会人としての歯科医師になることへの不安を感じていたとき。次は開業医に就職して3年ほどたち、自分のやりたいことがだんだん明確になってきたとき。そして、開業に向けて準備中の今。現在、建築のための図面を制作中で、最初から個室のプランで進めています。地方都市での開業ということで各方面から反対を受け、悩んでいました。しかし今回のセミナーを受講して、「相手に対する思いやり」、「世界に通用する歯科医院」という話を聞き、自分のなかの迷いが晴れた気がします。

まだ実際に自分の歯科医院がスタートしているわけではないため、今後もまた悩むことが多いと思いますが、今回のお話を常に思い出し頑張りたいと思います。また、考えを共有できる歯科衛生士

とともに Oral Physician コースを受講したいと強く思いますので、熊谷先生にはいつまでも変わらぬパワーでいていただきたいと願っています。

竹内公生(竹内歯科医院、開業準備中)

●みずからの診療コンセプトを再考

このセミナーに参加させていただくまでは、予防中心というのは一部の先生方だけのもので、これからの自分の歯科診療スタイルに応用していくのはあまり現実的でないのではというネガティブなイメージを漠然と抱いていました。しかし、強い予防への信念のもと、データ採取・管理、それに基づいた患者教育を徹底することによって、健康な方をも含めた幅広い層に支持され成功し、医



院の理想的診療スタイルを実現させていることを目の当たりにし、自分の診療コンセプトを再考する必要があると気づかされました。

Disease→Cared→Healthyではなく、生涯にわたって健康を維持継続してゆくコンセプト、データ採取を日々の診療で実際に実行してゆくことの大切さを熱心に講義して下さった熊谷先生。「Oral Physician」という波紋が今後も日本中に波及してゆく過程において、その中心にいらっしゃる先生に直接お会いでき、お話を聞いたこの感動はこれからの自分の人生において大きなエネルギー、財産になると思いました。私は卒後3年ですが、ワールドスタンダードな診療室づくりという考えは自分の心にすっと入ってくるものがありました。早い時期にこうした考え方に触れるのは非常に有意義なことと思います。このような機会を作ってく下さった熊谷先生はじめスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

水尻大希（東北大学大学院歯学研究科
加齢歯科学分野、大学院生）

●歯科医療の転換期を実感

私は、今までに二度ほど大学の講義で熊谷先生のお話をきく機会がありましたが、予防という概念さえよく分からなかった当時の私には、その内容をうまく理解することができませんでした。ようやく歯科医師となり、将来の歯科医師像が確立しつつある今、熊谷先生の考えや診療スタイルを実際に肌で感じてみようと思い参加しました。

“Oral Physician＝内科医的な歯科医”という考えにまず、新鮮さと驚きを感じずにはられません。根管治療がうまくなり、歯周外科ができるようになりたい……といった疾患単位で考えていた自分には少なからず衝撃でした。疾患を治すのではなく、疾患が起きないように予防を徹底するのが歯科医師の役割だという考えに感心し、日々の治療でさえ精一杯の自分は頭が下がる思いでした。Oral Physicianに必要なメディカルトリートメントモデルについての説明も内容が濃く、今こそ歯科医療の転換期なのだ実感しました。

歯科医師1年目のこのときに熊谷先生の熱いお話と実践されている診療所を見学できたことは良い経験になりました。先生は歯科医師にはまだ

まだやるべきことがたくさんあるとお話されていましたが、全くその通りだと思います。何かと悲観的な歯科界ですが、私たち、若手の歯科医師がそのような風を吹き飛ばすくらいの熱意と努力をもって歯科医療に臨んでいきたいと思います。

小川奈美（日本大学歯学部付属歯科病院、研修歯科医）

●改めて齲蝕を知る

卒業して5年、これまでたくさんの患者に触れ、一生懸命診療を重ねてきました。できることなら歯は削りたくないと思いながらたくさんの歯を削ってきました。また、ちまたに歯科医はあふれているし、自分も毎日働いているのに、なぜ患者は減るところか予約が埋まっていくのだろうか？治療や歯科医師の本業とは何かについて考えを巡らせていたとき、このセミナーに出会いました。

今回のセミナーで最も印象的であると同時に、驚き、ショックだったこと、それは、齲蝕に対しすぐに処置をせず経過を追い、もう手を打たねばと判断したとき初めて処置に入っていたことでした。齲蝕があればすぐに削る、私が毎日の診療で行ってきたことが、実はその歯の寿命を短くしていたかもしれない！！私は齲蝕というものを全然理解していなかったのです。タービンで削るとものの1秒、補綴物の平均使用年数などを考慮すると、メンテナンスが定着していない日本の歯科事情では、ほぼ再治療へまっしぐらでしょう。このことをすべての歯科医師が知っているのでしょうか？本当にショックでした。

まずは日吉歯科で行われているような規格性のあるデータ採取、継続性の積み重ねを作り、適切な時期に治療に介入できるスキルを少しずつでも身につけたいと考えています。新たな気づきを与えていただいた今回のセミナーに深く感謝いたします。

阿部紘子（東京都勤務医、福岡歯科）

2008年度「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日時：3月30日（日）、11月23日（日）

場所：山形県酒田市・日吉歯科診療所

申込先：SAT 事務局

Tel. 03-5808-2505, Fax. 03-5808-2506

<http://www.sat-iso.net>